

ハビネス城西

発行 医療法人 睦み会 城西病院

発行日 平成27年6月 日

H27. 5月号、No.7

〒770-0005 徳島県徳島市南矢三町3丁目11-23 Tel. 088-631-0181

URL <http://www.johsei-hp.jp/> E-mail johseihp@johsei-hp.jp



平成27年度事業計画

総合企画室長 徳重学

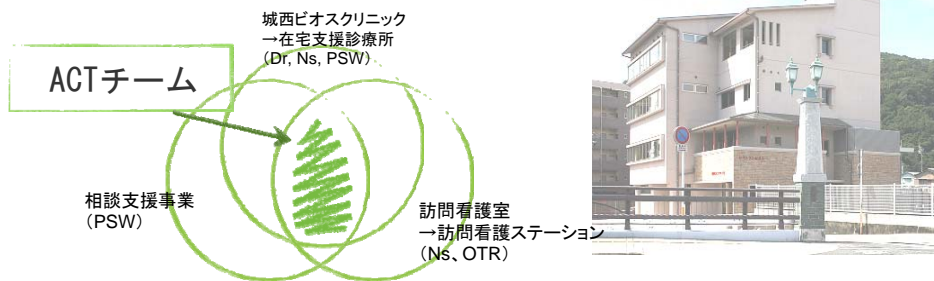
日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。65歳以上の人口は、現在3,000万人を超えており(国民の約4人に1人)、2042年の約3,900万人でピークを迎え、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。

私も医療法人睦み会は、このような大きな変革を求められる時代に、社会に対してどのような役割を果たせるかを考え、毎年事業計画を策定しています。

今回は平成27年度事業計画の中から、以下の2つをご紹介します。

在宅療養支援体制の整備・充実・推進

私たちは、認知症や精神障害を抱えた人々が住み慣れた場所で安心して暮らし続けるためには、様々なサービスを複合して提供できる地域医療の核となる施設が必要であると考えています。そうした考えにもつき平成25年に、「ここらとくらしのサポートセンタービオス」(以下サポートセンター)を立ち上げました。サポートセンターは、城西ビオスクリニックを中心として、相談支援事業所ビオス、多職種による訪問専門チーム(ACTチーム)があり、患者様のニーズ、状態に合った支援を実施しています。本年はサポートセンターが、より地域の在宅療養支援に貢献できるよう体制の整備、充実、推進を図っていきます。



救急・急性期医療体制の充実と強化

精神科医療の在宅化が進む中、調子の悪くなった救急患者への対応の重要性が、年々高まっています。私たちはこの社会的なニーズにこたえるべく、24時間365日、外来診察依頼の断りゼロを目指して、診療体制の強化を今年の目標としました。現体制では100%の達成は困難かもしれませんが、それでも少しでも目標に近づけるよう職員皆で邁進していく気持ちです。また同時に、入院における急性期医療の体制充実と質の向上を図ってまいります。

医療法人睦み会では、「心と身体を癒し続け、人生をより豊かなものとし、今を共に語り合い支え合って生きる」を理念としています。今年度も、皆さまとともに語り合って支えあって生きていければと思います。

医療法人睦み会の最も大切にしているもの

ロマン(理念)

心と身体を癒し続け
人生をより豊かなものとし
今を共に語り合い
支え合って生きる
基本方針

- 一 ほど良い医療と福祉を提供し、病める人をことさら大切に生きる
- 二 心の病は誰でもなりうる病気であることを忘れない
- 三 心の病は必ず治ることを信じ、スタッフ全員で取り組む
- 四 同じロマンをもつスタッフと一丸となって、共に高め合う
- 五 互いに支え合う共生社会を作り上げる

公開講座 開催

医療法人睦み会 第13回 公開講座

recovery
リカバリー について考える

日 時 / 平成27年 3月28日(土) 14:00-16:00

会 場 / あわぎんホール 4階大会議室

オーガナイザー / 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野
大森 哲郎 教授

講演1 / 医療法人睦み会 城西病院 診療部長 井上寿之 医師
「当院が考えるこれからの精神科医療」 14:00-14:30

講演2 / 松本ハウス (サンミュージック所属)
「統合失調症がやってくた」 14:30-16:00
コント&トークショー「病者一人としてアライヴ」植松祐一 俳優

「松本ハウス」1991年創設。松本浩一、中川信太郎によるお笑いコンビ「松本ハウス」として活動。NTV「漫才王」出演。CM「オモリカケキム」出演。各社のバラエティ番組でもレギュラー出演。一連人気者になる。1999年ハウス加賀屋の松本浩一、中川信太郎のコンビが結成。その後、10年間の活動を経て活動再開。現在は、10年間の活動を経て活動再開。現在は、10年間の活動を経て活動再開。

入場料 無料 定員 500名
会場 あわぎんホール4階大会議室
徳島市藍野2-14
TEL. 088-622-8121
開場時間 13:30
注意事項 予約は必要ありませんので、会場へ直接お越しください。入場は先着順です。
駐車場は、藍野地下駐車場など、周辺駐車場(有料)をご利用ください。

お問い合わせ先 徳島大学 徳島大学 徳島大学
〒770-0005 徳島市南矢三町3丁目11-23
TEL. 088-631-0181 FAX. 088-631-0182
E-mail johseihp@johsei-hp.jp
www.johsei-hp.jp

Johsei Hospital
医療法人 睦み会
城西病院

平成27年3月28日土曜日、第13回公開講座を開催しました。

今年は、多くの方に参加していただきたいと思い、会場の規模を大きくしたと共に、13回目にして初めて、リカバリーをテーマに「統合失調症」についての講演となりました。

松本ハウスさんの講演は、ハウス加賀屋さんの体験談や松本キックさんの関わり方を、発病～復帰までコントとトークショーで紹介してくださいました。

講演の最後に、会場の参加者へ、ハウス加賀屋さんより、「あせらない、あきらめない。」というメッセージがあり、その言葉に励まされました。

リカバリーという言葉が近年注目されていますが、スタッフとして出来ることを考えた時、まず、医療の現場でリカバリーを育てていく方法を考えていくことも大切だと感じた1日でした。

「当事者中心」に自らが望む生活の実現に役立つ医療のあり方や在宅生活でのサービス・システムを提供するには、医療の場では何が出来るのか？スタッフだけでなく、当事者・家族等と一緒に話し合える場の必要性を感じます。

私たちの普段の業務である、カンファレンス、家族教室、心理教育の会、集団精神療法、アクトチーム等から出る意見を取り上げていくことも、リカバリーを育てていくことに繋がるのではと考えます。

●参加者の感想(アンケートより一部抜粋)●

- ・諦めないことが大事とわかりました。
- ・病氣に対して理解を得られる環境があるということは、生活を送る上で大切な事だと思いました。「お笑い芸人をやる」という信念を貫くハウス加賀屋さんは素敵だと思います。
- ・スポーツ(サッカー)を取り上げたりリカバリーはいいと思う。
- ・加賀屋さんが病状を話されるのは恐ろしく辛いことのはず。それを、無駄な過去とせず、オープンにして前進する姿カッコいいです。
- ・実際に即した内容分かり易かった。質疑応答もよかったです。
- ・キックさんのサポートぶりがごく自然で感動しました。
- ・体験を聞き、よく理解が出来ました。
- ・自分も健康な心を取り戻すことが出来るんだと思った。

●精神科に対するイメージ(アンケートより一部抜粋)●

- ・クローズドなエリアというイメージ。環境や治療方法についてオープンにすることで、偏見も少なくなるのではないかと思います。
- ・閉鎖的から開放的になってきました。患者・家族も地域や病院に支えられながら、生きていかねばなりません。親・家族がささえられなくなった時の後が心配です。
- ・心が辛くなった時に駆け込める場所。本当は辛くなる前に気軽に行けるといいな。焦らない。あきらめない。
- ・子供が病気になるまでは、縁のない病院だと思っていました。子供が入院して精神科病院入院とは人に言えませんでした。どうにかして治って学校へ行けるように願ひ、軽々と病院を変わりました。14歳で入院現在59歳。ずっと入院生活を続けています。精神科は治らないのでしょうか。兄妹はおりますが、親の死後は息子はどうなるのでしょうか。心配です。
- ・現代社会では、ストレスがかかると、誰もがかかりやすい病。でも、精神科に通っているとやはりイメージが悪く見られやすいと思う。

などなど、皆様、貴重な感想ありがとうございました。

精神科については、まだ閉ざされたイメージもあるなか、公開講座などの啓発活動を通し、そういったイメージが解消されればと考えています。城西病院では、毎年、公開講座を開催します。今年も皆様のご参加をお待ちしております。

56周年 開院記念式典

平成27年4月16日 56周年開院記念式が挙行されました。

記念式において、永年勤続20年の方が4名、永年勤続10年の方が7名、あわせて11名の方が永年勤続表彰を受賞され、表彰状と副賞が授与されました。さらに、業務改善等で著しく功績のあった職員に対しても運営委員会特別賞として同様に表彰状と金一封が授与されました。式典では、理事長より毎年、法人ロマン『心と身体を癒し続け、人生をより豊かなものとし、今を共に語り合い支えあって生きる。』についてのお話があります。ここで、理事長の訓話をご紹介します。



開院記念式典挨拶 H27. 4. 16 理事長 井上和俊

今年、病院創立56周年です。全員でこの記念すべき日をお祝いしたいと思います。そして、各部署で日々業務に励まれている職員の皆様に対し、本日改めまして私より深く感謝申し上げます。

開院記念式典では、毎年法人のロマン『心と身体を癒し続け、人生をより豊かなものとし、今を共に語り合い支え合って生きる』についてのお話しをしています。本日は、オグ・マンディーノの「地上最強の商人」という本の一部を紹介したいと思います。この本は、題名から「セールスマンのための本」という響きがありますが、実際は、自分らしい人生を求める全ての人のための実践書であり、我々医療人にとっても、患者に接する心構えとして、とても有益な内容となっています。

まず第1巻で、「今日、私は新しい人生を始める」として、「今すぐ出発する」と決意します。また、失敗者と成功者の間横たわった一つの違いとは、「習慣の違い」であり、「良い習慣はあらゆる成功の鍵である」かくしてすべてに優先して守るべきことは「良い習慣をつくり、自らその奴隷となる」ことであり、良い習慣をつくる秘訣として、「ある習慣を変えるものは、新しい他の習慣だけである」と述べています。

具体的には、第2巻～第10巻までの巻物があるのですが、まずは第2巻を、朝起きたときに黙読し、昼食をすましたら再び黙読し、そして1日の終わり眠りにつく前に音読する。翌日もこのやり方を繰り返す。それを5週間続けます。それが済むと、第3巻に移り、同様に朝昼晩3回毎日読み続け、第10巻まで、合計45週間、約1年かけて読み続ける習慣をつけていきます。

「毎日読み返していると、巻物は、ついには私の思考習慣の一部となる。それは、私の、もう一つの心とも呼ぶべき場所(潜在意識)にしみこんでゆき、私の理解し難い神秘的な力となる。それは、私に夢をつくりださせ、しばしば不思議な行動を私にとらせるが、結局それは、目的達成のための最短距離だったことが後からわかる。そして、この習慣が続けられていくうちに、私は不思議な力に目覚め始める。」と書かれています。すなわち、繰り返して読むという行為が、その人の潜在意識の中に新しい中継機を植え込む作業をしていることになり、巻物に書かれたことが、顕在意識に登りやすくしてくれることで、人格が変わります。

第2巻は、8分もあれば読める内容ですが、時間の都合もあるので、ここではその中の一部を紹介したいと思います。「今日この日を、私は、心からの愛をもって迎える。なぜならば、これは、いかなる仕事においても、成功するための最大の秘訣だからである。腕力は楯を打ち砕き、人を殺すこともできるが、人の心を開くことはできない。これができるのは、眼に見えない愛の力だけである。この愛の心をもって、顧客(患者)に接しえぬかぎり、私はただの行商人(医療人)の域をでることはできない。私は愛をもって、私の最大の武器としよう。私に呼びかけられた客(患者)は、私の愛の力の前では、結局は商品を買わない(被害的な心から感謝の心にシフトしない)ではいられなくなるに違いない。あるいは客(患者)は私の説明に納得しないかもしれない。私の話をのっけから信じないかもしれない。…私の顔つきが気に入らないかもしれない。私との売買契約(診療契約)が、疑わしいと思うかもしれない。しかしながら、どんなにかたく凍りついた地面も、やがては太陽の熱には溶かされてしまうように、私の愛は、人の心を暖め、開いてしまおう。今日この日を、私は、心からの愛をもって迎える。では、どのようにして、それを成しえるのか?これより以後、私は、すべてのものを愛の心をもって見ることにしよう。そして、私は生まれ変わるのだ。私は太陽を愛する。それは私の骨の髄まで暖めてくれるがゆえに…。また、私は雨を愛する。それは、私の心を洗い清めてくれるがゆえに…。

私は光を愛する。それは、私の行く手を照らしてしてくれるがゆえに…。また、私は暗闇さえ愛する。それは、私に星の輝きを見せてくれるがゆえ…。私は喜びを歓迎する。なぜなら、それは私の心を広げてくれるからだ…。しかし、また、悲しみにも耐えよう。なぜなら、それは私の魂を開いてくれるからだ。報酬は当然、私に支払われるべきものだから、私は喜んで、それを受け取ろう。しかし、障害も、それは私とその仕事に挑んだゆえに、生じたことだから、同じく喜んで迎え入れよう。

今日この日を、私は、心からの愛をもって迎える。しかし、どのような言葉をもって話しかければよいのか?私は私の敵をたたえよう。これによって、彼らは私の友となろう。私は友をカづけよう。そうすれば、友は私の兄弟となる。つねに、私は、彼らをたたえるべき理由を探さべく勤めよう。けって、彼らの悪口をかき集めるようなことはするまい。他人を非難したくなったら、私は自分の舌を噛もう。その反対に、人を褒めたくなったら、私は屋根の上から大声で叫ぼう。鳥や、風や、海や、そして、大自然のすべてが、彼らの創造主を褒めたたえる音楽を奏でているのではないか。そして、人々も同じく、創造主が創りたもうたものである。その創造主の同じ子らにむかって、私も音楽を奏でることができないはずがない。これ以後、私は、この秘密をけつて忘れることはない。そして、この秘密が私を変えるのだ。」…「今日この日を、私は、心からの愛をもって迎える。しかし、私ははじめて出会う人びとに対し、どのように接すればよいのだろうか?方法はただ一つである。無言のうちに、心の中で、私は彼に近寄り、そして、『私は、あなたを愛している』と呼びかける。この言葉は、沈黙のうちに語られるが、しかし、それは、私の眼の中で輝き、私の額のしわをぬぐい去り、私の唇に微笑みをもたらす、私の声の中にこだまする。そして、このとき、はじめて彼の心が開かれるのである。…」…「今日この日を、私は心からの愛をもって迎える。今より私は全人類を愛する。今この瞬間より、すべての憎しみは、私の血管から除かれる。なぜなら、もう私には、愛する時間はあっても、憎む時間はないからである。…」等々と続きます。

この巻物の音読習慣は、卒酒会や外来患者の一部の人が、すでに始めています。巻物第2巻の全文とその記録用紙は、回覧通達で各部署にコピーを配りますので、昼休み時間などに各自読んでみて下さい。そして是非、役職員の皆様も、この音読習慣を続けてみてください。そうすることで、医療法人睦み会役職員の皆様の人生がより豊かになって、法人全体が愛に満ち溢れてくることを願っています。

この第2巻を、来週の月曜日から初めて5週間読み続けることができた人は、5月25日、月曜日以降に私に申し出てください。先着10名の方にこの本を差し上げようと思います。以上、開院記念式典の挨拶です。ありがとうございました。

5月25日を迎え、卒酒会参加メンバー様が音読を継続し、理事長より「地上最強の商人」が贈呈されました。

エコ活動 ～当院の取り組み紹介～

◆当院では、法人一丸となりエコ活動に取り組んでいます。地域に密着し地球環境にやさしい愛される病院を目指して日々努力しています。
今回は当院でのエコ活動を一部でございますが、ご紹介いたします。



◆エアコンの節電◆

電気・ガスエネルギーの前年比5%削減を目標に、H27年度も前年度と同様、継続した節電に取り組んでおります。事務室・詰所内でのエアコン稼働条件や冷暖房の温度設定を明文化して、職員への節電意識を高めています。

◆階段利用による省エネ◆

「電気を使わず、カロリーを燃やそう」を合言葉に、階段付近にポスターを掲示し、職員の積極的な階段利用を推進しております。多くの職員が実践しており、最近スリムになってきた職員もいます。職員の健康増進にも繋がる一石二鳥のエコ活動となっています。



◆不要紙の裏紙を再利用◆

不要紙を収集し、スタッフが個人情報の記載がされていないかの確認を行ったのち、用紙の裁断をして、メモ用紙を作成しています。スタッフ手作りのメモ用紙は、暖かみがあり、電話メモ、伝言メモとして大活躍です。

◆エコキャップ・プルトップ回収運動◆

当院では、平成22年より、CO2の削減、資源リサイクルへの貢献のため、エコキャップ・プルトップ回収運動を推進しています。地球と地域にやさしくをモットーに今後も継続して回収活動を行っていく予定です。



着任医師紹介

中村 公哉 医師



【専門分野】
精神疾患全般、児童思春期
【自己PR】

成人の精神疾患全般の診療に加え、香川小児病院(現 四国こどもとおとなの医療センター)での勤務経験があり、児童思春期の精神疾患も対象にして診療を行っております。

子どもの心の問題、発達の問題などでお悩みの方はご相談ください。早期に発見し、早期に治療することでその後の経過も良好になります。

城西病院 公式ブログ リニューアル

平成27年4月より、城西病院公式ブログのリニューアルを行いました。リニューアルにより、当院のホームページのトップ画面にブログの最新内容が表示されるようになり、更新状況が、よりわかりやすくなりました。

今回のリニューアルに伴い、公式ブログのアドレスが(<http://www.johsei-hp.jp/blog/>)に変更となりましたので、ブックマーク登録やお気に入り登録等頂いている方はお手数ですが、URL変更をお願いいたします。

今後も、魅力あふれる記事で、当院の活動をより多くの方に伝えていきたいと思っておりますので、ご愛読のほど、よろしく申し上げます。



医師の外来スケジュールが変更となりました。

城西病院 診療スケジュール

		月	火	水	木	金	土
AM	1診	小谷名誉院長	勝瀬医師	井上院長	小谷副院長	中村医師	井上院長
	2診	井上診療部長	小谷副院長	高野医師 (内科)		井上院長	勝瀬医師

城西ビオスクリニック 診療スケジュール

		月	火	水	木	金	土
9:00	レシジ	植村院長	植村院長	植村院長	/	植村院長	植村院長
	イエロー						
14:00	レシジ		植村院長	植村院長	/	井上秀医師	植村院長
	イエロー	井上和医師	中村医師				小谷医師